

会 議 録

会議名	令和7年度 第2回山形市少年自然の家運営協議会
開催日時	令和8年2月17日(火) 10:00~12:00
開催場所	山形市少年自然の家 研修室
主催	山形市少年自然の家運営協議会
出席者	出席委員 長沼 政直、黒沼 末八、大嶋 民代、横倉 明、 横戸 美栄、黒木 佳昭 欠席委員 山口 雅和、辻原 吉子、渡辺 彰 欠員1名
事務局	金沢 智也 教育長、板垣 裕子 教育部長 少年自然の家 和田 裕樹 所長 金山 治行 副所長 菅野 研一 副所長 森山 真澄 指導主事 横山 誠 主幹
議題	令和7年度事業報告・施設利用報告 令和8年度運営方針・事業計画・施設利用予定 等
資料	令和7年度 第2回山形市少年自然の家運営協議会 資料
傍聴者	0名
作成者	主幹 横山 誠

会議経過

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 運営協議会長あいさつ
- 4 協議

少年自然の家条例施行規則により、黒木会長を議長に選任

- (1) 令和7年度事業報告について
- (2) 令和7年度利用状況について

事務局より、資料を用いて報告。

委員 新しい事業の自然チャレンジ部は生徒たち自らが活動内容を検討し作成するという内容で、今の教育の流れに沿った取組みと思う。実際活動してみて、人数的な部分はどう感じられたのか。

事務局 当初は10名程度で募集したところ、応募は5名だった。活動の際は職員4、5名で対応しており、ほぼ1対1くらいで丁寧に指導できたものと思う。しかし、人数が多い方が活動の幅も広がることから、10名前後参加してもらえればと考える。

委員 森の昆虫見つけ隊は、初日がまだ夏休みでない学校もあり参加少なかった。令和8年は日程変更し5、6月に1回ずつと7月下旬に2回実施するよう計画してもらっている。自分の感覚では、虫好きな子供は元々いる。今昆虫ブームで、ユーチューブなどに若い虫の好きな人が上げた動画を一生懸命見ている子供も沢山いる。昆虫企画のイベントも、以前は募集人数が集まるまで時間かかったが、最近はずごく多くの人が集まっており、昨年7月によねざわ昆虫館で虫に触ったりもできるイベントを開催した際は、入場料500円で700人くらい来場があった。

森の昆虫見つけ隊は長く続いており、自分としてはありがたいイベントとなっている。

委員 今の子供達は、自分の志向に合うおもしろいものはすごく前向きに取り組むようになってきているのではないか。

委員 親子そば打ち道場に関わっているが、多数の申込みに応えるにはどうするか考えていきたい。また、雪椿まつりは、以前はイベント的な催しだったが参加される人も減少してきていた。花の咲く時期もずれてきて日程の設定も難しくなったり、ミズバショウがイノシシに食べられて減少しているといった状況の変化もあり、地元でもどの様にしていくか検討が必要となっている。

委員 地元地区でも頑張っているようだが、状況を紹介いただければ。

委員 地区では以前より危機感を感じ、何かやらなければと考えていた。元小学校を基地にして団体を立ち上げる予定で、色々な助け合いの仕組みづくりを考えている。地元の方は年配の方がほとんどなため、会員に若い方を募り交流人口を増やしていきたい考え。可能なら自然の家の活動とのマッチングもできればと思っている。

委員 山形大学社会教育実習について補足説明いただきたい。

事務局 山形大学の依頼により十数年にわたり少年自然の家で実施している。8月は2泊3日で基礎実習に参加、その後、自然の家の事業に応用実習として支援者の立場で参加し単位を取得するもの。以前は東北芸工大にも社会教育主事の取得コースがあったが今年度から廃止になったことから、県内の大学で社会教育主事を取得できるのは山形大学のみのため、この実習に今後も支援を継続していく考えである。

委員 主催事業参加者が増加しているが補足説明いただきたい。

事務局 小学校は宿泊が減ってきている。9月、10月は市街地に熊が出没した影響で利用のキャンセルした学校も数校あった。中学校来所する学校が年により入れ替えもあるため人数の増減みられる。昨年は野外活動センターでの活動もあり延べ人数として増加している。主催事業は、令和6年度が自然の家近くで熊が出没し宿泊を日帰りに変更した事業もあり人数減少しているため、今年度は前年比増となっている。

(3) 令和8年度運営方針(案)について

事務局より、資料を用いて報告。

委員 熊除けの対策として花火やラジオは効果がある。また、荒沼周辺など、藪を無くする対策も熊を寄せ付けない効果高い。熊はドングリ等山の食糧あれば山で生活するが、そうすると子熊が増える一面もある。熊は縄張りがあり、その範囲で暮らせる数以上に増えると餌を求めて別の場所に移動する。

委員 県民の森では今年度直接の目撃は無かった。熊除けとして音を出す対策は行っていた。鳥を観察する事業の際は、音を出さないようにして熊除けスプレーを携行した。ある幼稚園では、親からの要望あり屋外に出たの活動をしなかったことがあった。現状、集団での活動の際に熊に襲われたことはないため、まとまって活動していれば安全との認識で、主催事業の際はバラバラにならないよう気を付けて活動を行っている。

委員 自然チャレンジ部を企画してもらったことについて、中学校としてありがたいと思っている。自校でも部活動が任意加入で、半数くらいの生徒が部活に参加していない。すぐ下校しないで何か活動してもらおうと希望を聞くと調理実習と答える。今年度ピザづくりもあったが、自分で計画して、周辺で材料を採って乗せたりすると楽しくなるのでは。口コミが広まれば参加人数が増えていくと思うが、生徒の持っているタブレットに通知を流す方法も考えられる。

(4) 令和8年度事業計画(案)について

事務局より、資料を用いて報告。

委員 生活体験の家活用は企画を広げるのは大変と思うが、朝ドラ「ばけばけ」で興味関心高まっており定着していってもらえれば。

委員 板橋沼にはワカサギもいる。ぜひ活用してほしい。また、私たちの双葉小での活動にも言えるが、主催者がやり過ぎて参加者がお客様となることがある。あまりかまい過ぎず自ら考えてやってもらうことが大切であり、自分達が行う際も気を付けたいところである。生活体験の家について、沢山ある民具を活用した体験も面白いのでは。小学校の米作りで昔の大変さが体験できるような活動を検討してもらえれば。

事務局 板橋沼の活用については、自然チャレンジ部で冬に氷上を歩いてもらうこと考えている。夏期の活用については、今後検討させてもらいたい。生活体験の家の民具の活用についても、どの様に活動につなげられるか検討していきたい。

議長 少年団活動は本当に山形市の宝だと考えている。以前、私の同級生の斎藤元県知事の3人の子供全員少年団を経験した。自分が少年自然の家の職員だった際に彼の長男の指導に携わったが、7回の活動の中での成長はめざましいものがあった。ぜひ大事にしたい。また、以前に国で出した小児研修事業の報告書においても、断続的な泊を伴う活動についても非常に効果があると示されている。

(5) 令和8年度利用予定について

事務局より、資料を用いて報告。

委員 今年の熊によるキャンセルを見て来年度申込みに影響はあったのか。

事務局 小学5年生の宿泊研修ではキャンプ場利用がかなり少なくなった。万が一熊の影響でテント泊ができなくなった場合、体育館に宿泊する等の対応がとれるよう、同じ日に両方のキャンプ場に利用団体が入らないよう調整している。また、学校の教育課程見直しにも伴い、小学1年生の秋探しも申込みが減ってきている。

議長 学校のバス借り上げ料補助の見通しはどうなっているのか。

事務局 市内小中学校への助成は全額補助している。来年度も全額補助を継続していく予定である。

(6) その他

委員 板橋沼ではカヌーの利用もしている。カヌー協会とも関係しており、8年度にはカヌーの体験を行いたいと考えている。自然の家と結びつけられれば良いと思っている。

体験の家の民具の活用では、地区民が使い方の説明などで協力できれば思う。その際は声掛けいただきたい。

5 閉会

6 利用団体活動状況視察(ゲレンデ・サービスセンター)